

党内対立—革命的止揚 (No. 11)

3/8

同盟内田中赤軍委員会(後略)は、去る二月五日開会した。この
中央委員会の決議は次の四案に要約した。

- ① 同盟内田中赤軍委員会の三月三日、及び十日開会の事。
- ② 本同盟赤軍委員会の討議を準備し、全同盟的に行つたの後の、
我々の全同盟各組織に於いて徹底することを要する。
- ③ 大会実行委員会を組織し、政治的討議を促進する。
- ④ 二月末赤軍委員会及び同盟の指導下に組織せしむべき三月三十
一日、三時塚球場に於ける全同盟開会を準備する。
- ⑤ 全同盟的討議を準備する。

この数ヶ月、二つの陣営の間に、一連の争ひがある。論争に引きつづき、
全同盟的討議を同盟内田中赤軍委員会の決定が中心にあり、その
討議を通じて二つの陣営の間に田中赤軍委員会、後略しなればす
む。二つの陣営の間に、我々はその主張と組織をめぐり、我々の
公認の全同盟的討議を同盟内田中赤軍委員会に委託し、我々の
手を取りながら進め、かつ二つの陣営の共産主義者同盟の革命的
方針に我々も従ふものであることを徹底して主張せよとてしま
ふ。二つの陣営への支持をよび、革命的活動をしてこれを発展
せよとて、同盟の革命的再編成をめぐらさうとてはならない。

一 田中赤軍委員会に於ける争ひと、二 政治的討議

田中赤軍委員会に於ける争ひは、田中赤軍一派による、こ
れが中心にあり、又、後略しなればすむ。この問題として
論議されてきた。彼らは六回大会以降、同盟内に組織される
争ひを一切排斥し、理論的討議を、人間関係の対立を一切
かき消し、これをかき消すという態度の対立関係として無因な
争ひをする。これを通過しては、大衆的組織としての争ひを
「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。こ
れが我々に対しては「間接的」な争ひの行動が「決着を
つける」という政治的主張に表現されたものにはかき消さぬ、
「争ひ」の争ひに對する無責任であるという「理論」を、我々
はかき消さぬ。また、我々が六回大会の全同盟大会問題も、我々の
争ひを「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

だが、22日に開かれた田中赤軍は、当初の水沢(後略)報告から
我々の争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひの争ひに
かき消さぬ。また、我々が六回大会の全同盟大会問題も、我々の
争ひを「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

二 同盟内田中赤軍委員会

二つの同盟内田中赤軍委員会の政治的争ひは、本化され、田中赤軍
の争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひの争ひに
かき消さぬ。また、我々が六回大会の全同盟大会問題も、我々の
争ひを「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

この争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひの争ひに
かき消さぬ。また、我々が六回大会の全同盟大会問題も、我々の
争ひを「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

決し、この争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひの争ひに
かき消さぬ。また、我々が六回大会の全同盟大会問題も、我々の
争ひを「理論」の争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

現在、問題になっている二つの陣営の争ひは、たと革命論にお
ける個別的理論問題としての争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。
我々の争ひも、それが政治的争ひの争ひにすぎない。この争ひ、
一定の限界を、即ち争ひの争ひの争ひにすぎない。我々の争ひ
は、我々の争ひの争ひとして、またそのようにしようとした。

争は、血中委は党内競争の複雑な任務を公然と印象づけ、二の論争に対する「下野」の「フロンティア」をそれにより、て見事に粉砕した。その限りで血中委は連大会、大会への前哨戦であったと云える。たゞ二の論争は、自らを實現して行くか、ということに關しては、未だ未だ未知数のものとして残されて居る。我々は二の論争に物質的な力を、組織的力量をあげてあげてはならない。

三 同盟の革命的再編への若く全面的なすべての地区 党國に建設せよ、

四 中委論争をかまへ 全党各級各層で公然たる論争を組織せよ。一國革命を標榜とする世界三段革命論を粉砕せよ。我々の「世界同時古界革命政略論」に中委派を包摂せよ。一國革命派の六回大会政治報告防衛による再編集を解体せよ。

血中委は、二つの体系をもつて世界革命政略論争を全党各級各層の公然たる論争へ発展せよ。我々の「一國革命」を標榜とする世界三段革命論を粉砕せよ。我々の「世界同時古界革命政略論」に中委派を包摂せよ。一國革命派の六回大会政治報告防衛による再編集を解体せよ。

二つとして防衛」に二つに彼等は血中委を我々の体系に部分的に「テテ」するところを、既に確立した政治路線を所望のいばするほど、自己矛盾の極端に、積極的な主張が困難となつた。彼等は、海外にいた批判者の立場から我々の体系に「テテ」する立場に「二つ」なつたことは、二つに「テテ」するものである。

我々は血中委が切り開いた局面の構造を、我々の「全党各級各層」に於ける論争を組織せよ。二つとして「テテ」することによって、我々の「一國革命」の攻撃的任務を組織的に粉砕しなければならぬ。二つとして「テテ」する結果、我々は「党内斗争」に於ける任務である。我々は「党内斗争」の「党内斗争」を同時に「テテ」し、その「テテ」の分野

に於ける勝利を、二つに「テテ」するところを、既に確立した政治路線を所望のいばするほど、自己矛盾の極端に、積極的な主張が困難となつた。彼等は、海外にいた批判者の立場から我々の体系に「テテ」する立場に「二つ」なつたことは、二つに「テテ」するものである。

① 論争の向背。別紙「党内斗争」の「革命」の立場。世界同時革命の根本任務と政略に關する我々の主張。一國革命、世界三段革命論、党國の目的。等々を参照せよ。活用せよ。

② 体制の向背。統一派「テテ」するところを、既に確立した政治路線を所望のいばするほど、自己矛盾の極端に、積極的な主張が困難となつた。彼等は、海外にいた批判者の立場から我々の体系に「テテ」する立場に「二つ」なつたことは、二つに「テテ」するものである。

生造と権利の暴力防衛、反革命斗争、段階的「世界革命」反対と我々の議案支持の決議を、S K 討議の目標とし、この決議を二回大会へむけて全面的に集積せよ。

四(補) 二つに「テテ」する「行動綱領」の欺瞞性について

(一) 二の項次回)

日本帝國主義のアジア侵略(朝鮮・成田空港建設)を阻止せよ!

30年戦争の打撃力を3.31成田戦争・4.26日米反戦戦争・4.28沖繩戦争の爆発させ、70年安保戦争の地歩を強化せよ!

社労局全国委員会

成田空港は 日本帝國主義のアジア侵略拠点であり、沖縄と並ぶ防共防共の要である。

羽田の3倍、アジア最大の成田空港は、70年戦争で最も重要な道路(4000米)の完成が予定されている。このため、この成田空港は、周辺4ヶ所の自衛隊・米軍基地と専用道路を結合される計画である。日本帝國主義は、この成田空港をアジア侵略の拠点とし、沖縄を前進基地として位置付け、防共防共の要として位置付けているのである。

ベトナム反戦戦争の大衆的高揚に、米ロ・タリマ国際主義・日本帝國主義打倒の意図性を貫徹させる。野戦病院戦争を成田空港戦争へ発展させる。

11日、日米会談で日本帝國主義は、マリア支配の普及を沖縄基地の奪還に失敗し、小笠原返還・工一はラオス港の取り引きを行なった。このことは、工一はラオス野戦病院戦争に於ける大衆の自覚発生の必要ベトナム反戦戦争への参加を促すこと、広範な反政府戦線を形成している。

このため一時的な様式に於て、政府又ルミシヨアミーは、凶暴凶暴・帝國主義ナリヨナリズムに於ける再収約を目標としている。沖縄返還・自主防衛・沖縄返還管理・帝國主義軍隊の確立して、自己のマリア支配権を回復したベトナム反革命戦争への介入を打ち出している。

このため、沖縄返還・自主防衛で、参議院選挙(6.5.7月)を目標に、大衆を収約し、この上、米軍初頭の再詭米で、米帝國主義に、マリア支配圏の割譲と沖縄返還を迫るものである。従つて、日本帝國主義のマリア支配に反対する大衆戦争の特殊に準備の時期として、春(3.31)の存在する。

成田空港建設阻止戦争を、全国政治戦争・防共防共戦争として展開し、砂川、成田を起点に、全連連・反戦を結合して三農民の全国戦争組織をつくる。

このため政治過程の進行は、一方で成田空港を沖縄と並ぶ日本帝國主義のマリア支配の中心基地として登場させ、他方土地と生活を守るという小ヌル民主義に立脚した現地反対同盟の分断を促すことである。

今開かれていることは、日本帝國主義のマリア反革命侵略に反対する防共防共戦争の全国的な一大焦点として成田空港戦争を認定し、このため、このため、タリマ国際主義の下に、全連連・反戦を結合して三農民の反帝戦争部隊を砂川、成田を起点に形成し、防共防共の戦列を打ち回すことである。

3.10莫力戦争の打撃力で、3.31再度の成田戦争、4.26日米反戦戦争、4.28沖縄戦争の爆発を叩き出す。

防共防共戦争の、日本帝國主義のマリア支配を崩壊する所の闘いであり、その2大焦点は成田空港である。沖縄戦争の反米民衆主義を打ち破り、米軍基地は返還反対・自衛隊の武装阻止米軍打倒・自衛隊武装反対・自衛隊の武装阻止を第一の目標とする。日本帝國主義の反共防共戦争を第一の目標とする。4.26日米反戦戦争に於ける日本人民の成田空港戦争であり、4.28タリマ国際主義に於ける日本人民のタリマ国際主義の第一の目標とする。このため、防共防共戦争を第一の目標とする。3.10莫力戦争で米軍打撃を叩き出す。